

H30年度決算(※H30年度は公営企業会計への移行に伴う打ち切り決算となっています)

経営比較分析表の算出式

下水道事業

1. 経営の健全性・効率性

(単位:千円)

	算出式	H30算出
①収益的収支比率(%)	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用} + \text{地方債償還金}} \times 100$	$\frac{1,998,240}{1,257,307 + 1,287,838} \times 100 = 78.51\%$

【指標の意味】

料金収入や一般会計からの繰入金等の総収益で、総費用に地方債償還金を加えた費用をどの程度賄えているかを表す指標です。

(単位:千円)

	算出式	H30算出
④企業債残高対事業規模比率(%)	$\frac{\text{地方債現在高合計} - \text{一般会計負担額}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金}} \times 100$	$\frac{17,098,967 - 8,400,617}{1,533,771 - 0 - 249,287} \times 100 = 677.19\%$

【指標の意味】

料金収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。

(単位:千円)

	算出式	H30算出
⑤経費回収率(%)	$\frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費(公費負担分を除く)}} \times 100$	$\frac{1,049,305}{1,264,194} \times 100 = 83.00\%$

【指標の意味】

使用料で賄うべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標です。100%を下回っているため、汚水処理に係る費用が使用料以外の収入により賄われていることを意味するため、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減が必要です。

(単位:千円/m³)

	算出式	H30算出
⑥汚水処理原価(円)	$\frac{\text{汚水処理費(公費負担分を除く)}}{\text{年間有収水量}} \times 1000$	$\frac{1,256,188}{8,374,588} \times 1000 = 150.00\text{円}/\text{m}^3$

【指標の意味】

有収水量1m³あたりの汚水処理に要した費用であり、汚水資本費・汚水維持管理費の両方を含めた汚水処理に係るコストを表した指標です。

(単位:m³)

	算出式	H30算出
⑦施設利用率(%)	$\frac{\text{晴天時一日平均処理水量}}{\text{晴天時現在処理能力}} \times 100$	$\frac{31,179}{41,400} \times 100 = 75.31\%$

【指標の意味】

施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標です。

※単独処理場のみの施設利用率は、27,080÷41,400=65.41%になります。

(単位:人)

	算出式	H30算出
⑧水洗化率(%)	$\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$	$\frac{77,817}{79,701} \times 100 = 97.64\%$

【指標の意味】

現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標です。公共用水域の水質保全や、使用料収入の増加等の観点から100%となっていることが望ましい。

2. 老朽化の状況

(単位:m)

	算出式	H30算出
③管渠改善率(%)	$\frac{\text{改善(更新・改良・維持)管渠延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$	$\frac{7,270}{272,000} \times 100 = 2.67\%$

【指標の意味】

当該年度に更新した管渠延長の割合を表した指標で、管渠の更新ペースや状況を把握できます。